

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

第69回浅海増殖研究発表全国大会 —6月6日(木) 愛知県中電ホール— 香良洲漁協アオノリ研究会の研究発表が 農林水産大臣賞を受賞



6月6日(木)、愛知県名古屋市中電ホールにおいて、第69回浅海増殖研究発表全国大会が開催された。本大会は、ノリ生産者をはじめとする浅海増殖業者の年に一度の祭典となっており、本県の黒のり生産者も多数参加した。

大会委員長である有賀祐勝氏(浅海増殖研究中央協議会会長)らの挨拶の後、全国から5題の研究発表が行われた。

本県からは、香良洲漁協アオノリ研究会(近藤典也会長)が『香良洲地区漁業の構造転換をめざしたアオノリ養殖導入の取組』を発表し、見事、農林水産大臣賞を受賞した。

審査委員長である前川行幸氏(三重大学名誉教授)からは、「近年、アオノリ(ヒトエグサ)の値段が高騰し、新たな漁業の構造転換をめざして、アオノリ養殖に取り組む姿勢は高く評価できる。これまで4年

にわたり、試行錯誤を繰り返しながら、波あたりや河川の影響等を考慮しながら研究を続け、何とか県平均に近い、収量と生産を上げてこられた努力を評価したい」と述べられた。

また、研究発表後には、三重大学名誉教授の天野秀臣氏より『海苔の食品としての今後に期待すること』と題して特別講演が行われ、参加者たちは興味深く聞き入っていた。

桑名で密漁防止合同パトロール実施 —6/1(土) 漁業関係者、取締機構等連携—



木曾川、揖斐・長良川河口の伊勢湾でハマグリなど貝類の密漁防止を図るために、桑名市の漁協などで作る桑名地区密漁防止対策協議会(水谷隆行会長)は1日、地元漁業者のほか、海上保安部、桑名警察署、桑名市、県取締り関係者など各機関から約80人が参加し、陸上や漁船上から監視、啓発活動を展開した。

このパトロールは平成24年3月の開始以来今回で9回目。パトロールに先立つ開会式では、県農林水産部仲次長、伊藤桑名

市長らの挨拶があり、協議会長で赤須賀漁協の水谷組合長は「地道な活動を続けることが桑名のハマグリを守ることに繋がると信じている」と話した。

当日は、陸からのアクセスも可能な城南干潟と長島干潟へ、陸上班と船上班が二方向から挟み撃ちする形で取締りを実施。漁業権対象魚種であり、赤須賀漁協が種苗生産を行い、長年かけて資源回復を図ってきたハマグリを採捕していた者に対してチラシを配布して、違法性と資源保護を呼びかけた。昨年末には、漁業権を侵害するような行為に対する罰金刑の大幅な引き上げなどを盛り込んだ改正漁業法が成立しており、この法改正が今後の密漁者の根絶に繋がるよう期待したい。



密漁したハマグリが放置されその場を離れていく者も多く見られた。

**三重県水産物消費拡大促進協議会
第32回通常総会—6月5日(水) 津市—**



6月5日(水)、三重県津市水産会館研修室において、三重県水産物消費拡大促進協議会(湯浅雅人会長)の第32回通常総会が開催された。

冒頭、湯浅会長が挨拶に立ち『今我々水産関係者に求められているのは、水産物を一時的なブームとして盛り上げるのではなく、長い目で見て少しずつでも魚を好む人が増えるようにすること。最近では料理や食についての知識をテレビや雑誌、料理教室などで学ぶ人が多くなってきたが、この機会を利用し、「美味しい」、そして「安全・安心」な水産物を提供することはもちろん、豊富な知識や情報、調理方法なども提供し、着実に魚食を浸透させていくことが重要だ』と述べた。

総会では、平成30年度事業報告、2019年度事業計画等が諮られ、全て原案どおり承認された。

総会終了後には、鳥羽市立海の博物館館長 平賀大蔵氏より『記録にみる三重の水産物と海の博物館の資料』と題して記念講演が行われた。

【主な予定】

○6月21日(金)

三重県水産多面的機能発揮対策協議会

総会(津)

○6月25日(火)

三重県漁業士会・漁青連合同総会(津)

三重県漁港漁場協会総会(津)

○6月26日(水)

漁連・信漁連・漁済通常総会(津)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。